



学生が自ら選定した課題や地域などから提案されたテーマに基づき実施する社会貢献活動を支援することにより、学生の豊かな人間性を育み、さらに自主性や問題解決能力を養成することを目的として、プロジェクトを実施するグループに対し補助金を交付します。

▶2024年度採択事業

01 地域活性化のための掲示板アプリCocBanの普及および課題解決能力の検証

代表者：情報科学研究科 博士前期2年 山崎 陽介
構成員：3名
アドバイザー：情報科学研究科 教授 弘中 哲夫

【目的】

CocBanの有用性を確認・改良し、広島市内の地域コミュニティへの導入と普及を図る。さらに、持続可能な運用に向けて事業化を推進することを目指す。

○2023-2024年度採択事業

学生が起業した
企業として
本学で初めての認定！



株式会社 CocBanを
「広島市立大学発ベンチャー」に認定

地域のための
コミュニケーション
アプリ

CocBan



CocBan
ウェブサイト



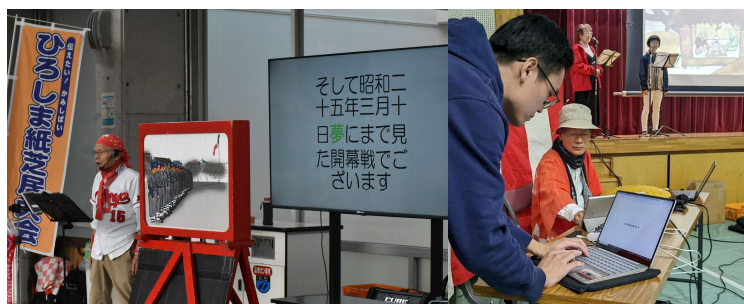
02 耳の不自由な人や外国人向けの字幕表示システム

代表者：情報科学部 3年 田中 瞬
構成員：3名
アドバイザー：情報科学研究科 助教 森 康真

【目的】

紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。

人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。
○2023-2024年度採択事業



03 技術と創造の探求！ プログラミングと芸術の体験教室

代表者：情報科学部3年 大倉 秀斗
構成員：3名
アドバイザー：情報科学研究科 准教授 目良 和也

【目的】

中高生に、プログラミングによるロボット制作、写真撮影、粘土工作などを体験できる機会を提供。情報技術と芸術を融合したプログラムを通じて、問題解決力や自己表現力を育む。また、プレゼンテーションではパワーポイント技術やコミュニケーション力を養い、将来を考える実践的な学びの場を提供するイベントを開催。



04 パラスポーツで人生を豊かにする

代表者：国際学部3年 田儀 千尋
構成員：4名
アドバイザー：国際学部 教授 山根 史博

【目的】

障がい者(チャレンジド)とともに、パラスポーツを通じて交流を行うことで、チャレンジドの方々やパラスポーツへの理解を深め、チャレンジドの方々が知ってもらいたいこと、広めていきたい情報を伝えることができる場を作る。
チャレンジドの方々とのつながりを増やし、みんなで課題を解決していくコミュニティをつくり、パラスポーツで「豊かな人生」を実現することを目標とする。



05 農業×IT 情報技術を用いて農業の担い手不足を支援

代表者：情報科学部3年 岩室 怜弥
 構成員：5名
 アドバイザー：情報科学研究科 教授 西 正博

【目的】

農作業のノウハウを電子マニュアルとしてまとめたプラットフォームを開発し、誰でも正しく学び、いつでも作業を振り返られる環境を整える。
 これにより、農作業の質や継承の課題を解決し、担い手育成や雇用の支援を目指す。
 また、この取り組みを広く発信することで、広島菜のPRにもつなげる。



06 食を通じた国際理解

代表者：国際学部2年 伊藤 綾乃
 構成員：3名
 アドバイザー：教育基盤センター
 特任准教授 平尾 順平

【目的】

イベントを通じて世界各国の料理を食べながらその国の文化などを学び、それぞれの国について考え理解を深めてもらう。
 また、公民館などの地域の団体と連携を取りながら活動を計画、運営することで、より地域に根差した、持続的な場を提供としていく。
 ○2024-2025年度採択事業



07 若者の強く生きていける社会を目指す展覧会

代表者：芸術学部4年 若林 出海
 構成員：3名 他芸術学部 作家数名
 アドバイザー：芸術学部 准教授 岩崎 貴宏

【目的】

コロナ以降、小学生の不登校が増加し、その背景には人間関係や学校生活での「生きづらさ」がある。本プロジェクトでは、不登校を直接的に解決するのではなく、子どもへの理解と関心を深め、大人との信頼関係を築くことを重視。美術を通じて、若者が無理なく強く生きていける社会と、美術の現代的意義の向上を目指す。

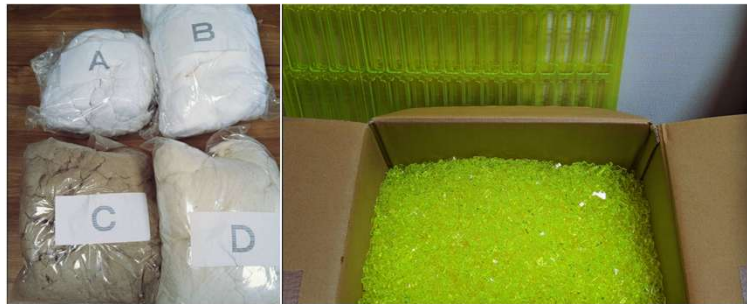


08 企業の廃材を活用した製品化提案

代表者：情報科学部3年 マニンガス ファン ミゲル
 構成員：4名
 アドバイザー：情報科学研究科 教授 李 仕剛

【目的】

企業が処理している廃棄物を再利用して、地域復興に繋がるSDGs配慮の商品の提案をする。
 最終目標は、企業の廃棄物を再利用した大量生産可能で地域活性化につながる商品アイデアの提案。
 そのために廃材の特性を研究し、適した商品モデルを試作。企業に評価を依頼し、実用化を目指す。
 ○開学30周年記念プロジェクト



活動報告会（2025年2月28日（金）開催）

2024年度いちだい地域共創プロジェクトと市大生チャレンジ事業の合同活動報告会を、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。

対面は86名、オンラインは46名と、あわせて132名と多くの方にご参加いただきました。

